

岐阜市「地域活動指導員」としての実践を通じた学校と地域との連携に関わる調査研究

松田雅裕¹⁾・益川浩一²⁾

¹⁾岐阜市立長森東小学校（〒500-8223 岐阜市水海道2丁目10-1）

²⁾岐阜大学地域協学センター（〒501-1193 岐阜市柳戸1-1）

要旨

平成18年3月12日に、岐阜市教育長決裁で作成された「少年教育推進活動実施要項」において、各校の校務分掌の一つとして地域活動指導員を設置することが定められた。その活動には、

(1) 児童・生徒の社会教育活動の実態を把握する、(2) 児童・生徒の社会教育活動について校内職員に正しい理解の普及を図る、(3) 社会教育活動参加者の活動の評価、激励をする、(4) 児童・生徒の地域における活動へ指導・助言をする、(5) 加入促進、参加奨励、と記されている。本研究は学校現場での実践を通して、その校務分掌が学校と地域との連携に資する可能性を探る。

キーワード

地域活動指導員 学校と地域との連携 地域学校協働活動 学校の窓口

1. 実践研究の構え

平成28年度、筆者（松田）の勤務校である岐阜市立長森東小学校において、校務分掌として地域活動指導員を担当することとなった。そこで、実際に地域活動指導員として実践をしながら、研究を進めることにした。しかし、その校務分掌は、実施要項において(1) 児童・生徒の社会教育活動の実態を把握する、(2) 児童・生徒の社会教育活動について校内職員に正しい理解の普及を図る、(3) 社会教育活動参加者の活動の評価、激励をする、(4) 児童・生徒の地域における活動へ指導・助言をする、(5) 加入促進、参加奨励のように五つの活動内容が規定されてはいるものの、過去の担当者にはそれらの内容が明確に認識されておらず十分に活動されてこなかった経緯がある。¹⁾ そこで、自分がその活動内容を念頭に置きつつも、具体的にはどのような活動ができるかを探りながら、できることをやっていくという方法で実践を進めるようにした。

そのため、この実践研究は、地域活動指導員として参与観察をし、実践中のメモや写真などの記録や、実践後の追記から実践の分析をしていくという構えで進めていった。

2. 地域活動指導員としての主な具体的役割

地域活動指導員の主な具体的役割として、インリーダーへの指導がある。インリーダーとは、子ども会の中にいながら、指導的な役割を担う子供のことである。筆者（松田）の勤務地である岐阜市長森東地区では、小学校5、6年生から希望者を募集し、インリーダーを決定する。特に条件があるわけではなく、全ての希望者がインリーダーになることができる。

インリーダーになった子供は、年に数回実施される研修会に参加したり、田植えなどの体験活動を行ったりする。一定の回数、参加すると、年度末に修了証を受け取ることができる。

インリーダーは、研修会への参加や、色々な体験活動を通して、同じインリーダーの仲間や他校のインリーダーとの関わりをもったり、地域の方々と共に活動したりする。このような活動において培った仲間と協力する力やコミュニケーション能力を生かし、校区内の各地区に設けられている単位子ども会において、リーダーシップを発揮し、単位子ども会に参加する小学校1年生から6年生をまとめていくことが期待されている。

繰り返しになるが、地域活動指導員には、インリーダーになった子供が、単位子ども会²⁾でリーダーシップを発揮できるよう、研修会や色々な体験活動中に指導していく役割がある。指導の

構えとして、子供たちの主体性を大切にすることが求められる。

3. 具体的な実践

(1) 地域の活動への参加

先述したように、地域活動指導員の活動としては大きく五つある。そのうち、

(1) 子供・生徒の社会教育活動の実態把握

(4) 子供・生徒の地域の活動への指導・助言をする

という二つの地域活動指導員としての活動を具現するためには、子供たちが地域の活動へ参加している現場に足を運ばなければならない。そこで、可能な限り、活動現場に足を運ぶようにした。以下、筆者（松田）が参加した活動を挙げながら、その内容の概要を記す。

1 インリーダー開講式への参加（4/16/土）

当該年度、インリーダー（地域のリーダーとして活動する小学校 5,6 年生）として活動する 27 名の開講式が長森東公民館であり、そこに参加して、担当教員として挨拶した。

「地域活動指導員」という名称も浸透させたいと考え、その名称を用いて自己紹介した。役員の方々には「子供への指導で困ったら、いつでもお手伝いします。」と声をかけた。



【インリーダー開講式での挨拶の様子】

2 子ども会役員総会への参加（4/16/土）

インリーダー開講式と同時進行で、同じ長森東公民館内で開かれていた子ども会役員の総会にも顔を出し、挨拶した。多くの役員の方々との顔つなぎができ、「顔が見える連携」の第一歩となった。この会に参加して感じたことは、改めて子ども会の活動に多くの地域住民が関わっているという事実である。

3 「第5ブロック子どもフェスティバル」の準備への参加（4/16/土）

岐阜市の子ども会活動は、五つのブロックに分かれて活動をしている。毎年、それぞれのブロックに属するインリーダーが一堂に会する「子どもフェスティバル」が開かれており、各校のインリーダーがそれぞれ遊びのブースを開き、遊びを通して交流を図るようにしている。長森東小学校は第5ブロックに属しており、当該年度は会場校であった。

開講式後、そのフェスティバルに向けての準備が行われた。例年、地域活動指導員は開講式への参加のみであったようだが、今回は、こちらの準備にも参加し、子供たちと一緒にブースで紹介する「コロコロコロリン」（ゴムに粘土を付けて回転させ、ゴムが戻る力を利用して紙コップを動かす遊び）の試作を行った。

4 「歩け歩け大会」への参加（5/8/日）

地域の行事である「歩け歩け大会」に学校の代表として参加した。学校長に代わり、開会式での挨拶も担当した。この大会に参加したことでも、子供たちの健全な育成のために、多くの地域住民が関わっていることが実感でき、子供の教育や人間形成は学校だけが担っているのではないことを思い知らされた。

この会に参加することによって、地域の自治会の役員の方々など、諸団体の方々と顔見知りになれたこと、学級担任をしていない子供や子供の保護者と話ができたとしたことなど、多くの収穫があった。また、地域の交通安全協会などの諸団体が連携・協力し合いながらこの大会を運営しており、地域のつながりの強さや、そのつながりこそが地域の大きな財産であること、つまり「ソーシャル・キャピタル」であることも理解することができた。勤務時間外での活動ではあるが、多くの教員が同様に参加すれば、教員の地域との連携に関する意識も向上するのではと考えた。

5 「第5ブロック子どもフェスティバル」への参加（5/21/土）

(1) -3 で示した「第5ブロック子どもフェスティバル」に参加した。子供たちは、準備で試

作してみた「コロコロコロリン」を他地区のインリーダーに紹介し、作り方を教え、楽しんでもらうためのブースを設け、受付役や教え役を担当しながら、ブースを営んでいた。

他地区の子供と関わっていると、筆者（松田）が担当しているインリーダーの子供たちが抱える課題が見えてきた。例えば、自分で考えて動く姿や、知らない相手に対するコミュニケーション力などである。インリーダーの子供たちは、先述したように、各単位子ども会ではリーダーとして動かなければならない立場にある。そのような役割を果たすためには、今後のインリーダーとしての活動の中で上の二つの力などを高めていくため、筆者（松田）が指導していかなければならないと感じることができた。

6 「田植え活動」への参加（6/18/日）

この活動は、6年ほど前から続けている活動のようである。この活動を実現するためには、地元の子ども会育成協議会の方々をはじめ、農政推進委員やJAのスタッフ、市役所の職員などの協力がある。この活動も、地域の中の人と人とのつながり（ソーシャル・キャピタル）があつてこそ、実現できる活動である。

子供たちの中には、初めて体験する子供もおり、後述するインリーダーの子供たちに行ったアンケート「1学期のインリーダーの活動をふりかえって」でも、「1学期のインリーダーの活動で、楽しかったこと」として、この田植えを挙げる子供も多かった。地域活動指導員として、前半は、子供たちと共に田んぼに入り、田植えをした。また、後半は、活動の様子の撮影や子供たちへの励ましなど、活動を見守ったり、声をかけたりしながら参加した。

さらに、活動をしていると、苗を植える目安とするひもの位置を守らずに植えてしまう子供や、指導者がそのひもの位置を変えていないのに、目安のひもがない場所へも植え始めてしまうなど、約束を守れなくなってしまう子供も出てくる。子ども会指導部員の方々には誰も田んぼに入っておらず、指導ができないので、筆者（松田）が指導していった。

7 「デイキャンプ」計画会①への参加（7/9/土）

この活動については、詳しく後述する。

8 「デイキャンプ」計画会②への参加（9/17/土）

デイキャンプに関わって、行先や活動内容など、細かな確認をする会があり、参加した。

9 「デイキャンプ」への参加（10/8/土）

2回に渡って計画してきたデイキャンプに参加した。活動は、五平餅作りとクラフトの二つであった。決定までに紆余曲折はあったグループではあったが、当日は、役割分担にしたがつて、進んで動く子供たちの姿があった。

当日、感じたことは、子ども会指導部の方々のご苦勞である。この活動の計画・準備をはじめ、学校近くの駅から最寄りの駅、そして会場であった各務原市青少年自然の家までの往復の引率など、子供への指導経験がほとんどない地域住民が、この一つの活動を成立させるために、並々ならぬ労力を使わねばならない。しかも、ボランティアでの活動である。

10 「デイキャンプ」の反省会への参加（10/15/土）

上に記したデイキャンプの反省会に参加した。「五平餅を初めて焼いたけど、おいしくできてよかった。」や「クラフトでは木を削るのが大変だったけど、最後まで削り、完成できた。」などの感想が出された。このような振り返りを行う際には、当日の写真を見ながら振り返るや、活動の様子を見ていた大人が子供たちの姿や動きのよさを価値付けるなどの支援があるとよい。このような点において、教師が指導部を務める地域住民に助言できるとよいと考えた。

11 「稲刈りをしよう」への参加（10/20/土）

(1) —6 で示した「田植えをしよう」で植えたもち米の稲を、その時と同様に各種団体の援助を受けながら稲刈りの活動をした。

この活動も、指導部はほとんど支援することなく、各種団体の方々に指導は任せられ、活動は進んでいった。収穫したもち米は、後述する「収穫祭」で餅つきをして「きなこ餅」にし、収穫祭に訪れた人々に振る舞ったり、自分たちで食べたりすることになる。



【自分たちが植えた稲を刈る子供】

12 「夢づくりふれあいフェスタ」への参加（11/5/土）

この「夢づくりふれあいフェスタ」とは、地域の各種団体が学校の教室や体育館、運動場などを使って「スライム作り」や「ストラックアウト」などの様々なブースを設け、小学校に在籍する子供たちにそのブースを回りながら楽しんでもらう催しである。それぞれのブースの運営は各種団体に任せられているが、開閉会式や会全体の進行はインリーダー及びその指導にあたる子ども会指導部が担当することになっている。開催日は、岐阜市の小中学校が原則として月に1回、実施している土曜授業日の午後に行われた。勤務校である長森東小学校では、終日、勤務日とし、全教職員が参加した。



【開閉会式を進行する子供】

13 「収穫祭」への参加（11/24/日）

この活動は、JA北長森の全面的な協力を得て、近隣の長森西小学校とも協力しながら行っている。「収穫祭」であると同時に「感謝祭」とも呼ばれ、田植えや稲刈りなど、貴重な体験活動を提供してくれた地域の方々に感謝の意を子供たちが表すため、野菜の販売やJAの職員などが調理したフライドポテトや豚汁、そして自分たちが育てたもち米で作る「きなこ餅」をつき、振る舞うといった活動を行った。

(3) —5 で示した「第5ブロック子どもフェスティバル」では、他地区の子供たちとはうまくコミュニケーションがとれなかった子供たちであったが、当日は、豚汁などを受け取りに来た地域住民に自分から話しかけたり、長森西小学校の子供たちとも協力し合ったりしながら、活動が進められていた。学校では実現しにくい多様な人々との関わりを何回も経験できたことの積み重ねが、子供たちの力を伸ばしたのではないかと推測した。

同様のことは後述するが、このような子供たちの成長を、指導する側がどれだけ意図し、計画して指導にあたることができるかが、大きな課題であろう。指導する



【自分たちで育てたもち米をつく子供】

側として、めざす姿が明確であれば、それに少しでも近づけるように指導するであろうし、めざす姿に子供たちが近づいたとき、的確に評価することもできる。子供たちの成長を確かなものにするためには、子供たちが自分の成長を自覚することが大切である。子供たちの姿は確実に成長したと捉えた。では、周りの大人がその成長を認め、子供たちに自覚させ、子供たちは自信をもってこの活動を終えることができたであろうか、と考えた。

14 「新年子供大会」の練習への参加

1月22日（日）に、長良川国際会議場を会場として開催される「新年子供大会」の発表の練習に参加した。この練習は、12月中の土曜日に3回、1月中の土曜日に2回、行われる。この「新年子供大会」とは、各子ども会のインリーダーが、1年間の活動の報告をし合う会である。活動の

報告以外にも発表の時間があり、当該年度は前年度に引き続き、ダンスの発表をすると決め、練習に取り組んでいる。活動の総括ということもあり、発表内容や練習計画、実際の練習も、子供たち、特に6年生が主導して進めることができ、子ども会指導部員も見守るという姿勢で練習に臨んでいた。

(2) 通信による校内職員への啓発

地域活動指導員の五つの活動のうち、

(2) 子供・生徒の社会教育活動について校内職員に正しい理解の普及を図る。

という活動が弱いという筆者(松田)の主張を踏まえて通信を作成し、4月の最初の職員打ち合わせ(週に1回開催)で配付した。その後は不定期ではあったが、月に1回程度の頻度で配付し、校内職員に対して地域活動指導員の仕事や地域におけるインリーダー、子ども会の活動、地域の方々の仕事ぶりや率直な思い、担当としての意見等を職員に伝えるようにした。

(3) インリーダーの活動を紹介する掲示の作成

地域活動指導員の五つの活動のうち、

(3) 社会教育活動参加者の活動の評価、激励をする。

(5) 加入促進、参加奨励

に関わって、校内にインリーダーの活動を紹介する掲示を作成した。

掲示板に活動が紹介されることは、そのこと自体が活動への評価や激励につながると考えている。また、掲示を目にした他の子供や教師、保護者からも評価されたり激励されたりする機会を生むことにもつながると考えている。

加えて、この掲示は、4年生の教室が位置付けられている勤務校の校舎3階に作成した。次期インリーダー候補である4年生の目に留まりやすい場所に掲示することが、社会教育活動への加入促進、参加奨励にもつながると考えている。



【インリーダーの活躍を知らせる掲示板】

(4) 地域活動への参加から見えてきたこと

1 「デイキャンプ」の計画会①から

(1) ー7でも示したように、7月9日(土)、インリーダー研修会に参加した。

内容は、10月に予定されていた「デイキャンプ」の計画会となっていた。長森東のインリーダーは、決められた予算内で日帰り旅行をする「夢冒険」と「デイキャンプ」を隔年で行ってきた。したがって、前年度もインリーダーを務めた6年生も「デイキャンプ」は経験しておらず、インリーダー全員が初めての経験となる。

以下、会がどのように流れて行ったか、会の概要を、研修会中のメモや、研修会後の追記をもとに記述する。

◇開会の言葉

これから第4回インリーダー研修会を始めますという宣言があった。

◇デイキャンプで行うクラフトの選択

最初に、インリーダーの中のリーダーとサブリーダーが司会を務め、デイキャンプでクラフトをやることを伝えた。そして、四つの活動から選ぶことが示され、考える時間がもたれた。子ども会育成協議会指導部長から、四つの活動について簡単に説明があった。子供たちが考えている間、指導部員の大人たちは、会場の端で集まり、デイキャンプの打ち合わせをしていた。しばらくして司会者から希望の活動に挙手するように言われ、挙手多数で「小枝のペン」に決定した。

◇クラフトを行うためのグループ決め

インリーダー開講式で、全27名を4グループに分けたが、クラフトを行う会場のテーブル

が小さいため、6、7名のグループでの活動ができないため、デイキャンプのクラフト用に、改めて5グループを作るよう、司会者から指示があった。グループ決めは、以下のように進められた。

- ① 全員に対し、5、6年生が混ざった5グループを作るよう指示あり。しかし、うまくグループ決めができない。司会者が、指導部員の大人に相談。
- ② 5年生、6年生がそれぞれ5つに分れ、次に5年生が作ったある一つのグループと、6年生が作ったあるグループをくっつける案が示された。そのため、学年ごとに分かれて、5グループを作ることになった。しばらくの間、話し合いがもたれていた。しかし、うまくくっついたグループと、いつまでたってもできない子供たちがいた。司会者の2人は、また、指導部員の大人に相談に行った。
- ③指導部員の一人が、5年生は人数が多いから6グループを作り、6年生は最初の4グループのままとし、それぞれの代表者がくじを引いて最終グループを決定する案を出し、くじを作り始めた。5年生には、6グループになるように指示が出た。②の過程でうまくグループができたところも、やり直しである。結局、A・B・C・D・Eの5グループを作るが、Eは5年生だけのグループにすることになった。しかし、この方針は全員には伝えられず、案を出した指導部員の近くにいて話を聞くことができた子供しか聞けなかったため、一部の子供たちは何が起きているのか把握できず、いつの間にか、せっかく決めたグループとは違うメンバーでグループを組まされていたことになった。

◇閉会の言葉

これで第4回インリーダー研修会を終わりますという宣言があった。13時30分に開始され、15時までの予定であったが、終了した時刻は14時20分であった。50分の活動時間で、内容はクラフトの選択とクラフト用のグループ決めの二つであった。

今回の計画会の途中や計画会后、子供たちへ「どこへ行くの?」「どうやって行くの?」「クラフト以外に何をやるの?」「どんなことが楽しみ?」「どんな目当てで行くの?」と尋ねても、返答ができなかった。今回の計画会中に、デイキャンプの全体像や見通しが示されなかったのが、当然である。

指導者である大人が、その活動を成り立たせるために決めておかなければならないことを決めるだけの計画会になっており、子供たちに見通しをもたせたり、活動への意欲や課題意識・目的意識を高めたりしながら、子供たちの主体的な活動を促すための計画会にはなっていなかった。

2 地域活動を指導する子ども会指導部員の意識について

確かに、岐阜市中央青少年会館のHPには、「子ども会育成会の役員として」という助言が掲載されており、次のように記されている。(註)

子供に関係する活動計画は子供のリーダーに決定させることが大切

育成者としての計画を立てたら、子供に関係する部分の子供のリーダー(5、6年のインリーダーなど)と相談しましょう。育成者だけに関係することは自分たちで決めても構いませんが、子供に直接関わることは、子供のリーダーたちが決定していくことを支える立場にまわりましょう!そうすることが子供たちのやる気を生み出し、子ども会活動が活発になるきっかけとなります。

- ・日にちや時間など大まかなこと=育成者が決める。
- ・具体的な活動内容や活動場所=子供のリーダーが決める

活動内容についてははじめから全て子供たちに考えさせるのは無理です。「こんなことができるよ!」という例示をいくつか示してあげると、子供たちはそこから発展して考えていくことができるのです。

□子供たちと打合せをしながら準備をすすめることが大切

子供たちが会を進めると、なかなかうまくいかないことがあります。見ているとじれっなくなるので、はじめから育成者が司会進行をやってしまうなんていうことがあるかもしれません。しかし、育成者が前に出すぎると、子供たちが育たないばかりか、「やらされている子ども会」という意識をもち、子ども会嫌いになってしまうこともあります。子供が間違っ

でも当たり前。会がスムーズに流れることが大切なのではありません。子供たちがいろいろ経験することそのものに意味があるのです。

- ・子ども会を自分から進行しようとする子供を育てる
- ・自分たちの力で進行できたことに満足感を味わう子供を育てる
- ・失敗から学び、もう一回やってみようと思う子供を育てる

指導部の方々は、このマニュアルをしっかりと守り、活動をしていることは分かる。しかし、「子供たちの主体的な活動」を、子供たちが会を進めること、大人が会の中でできるだけ口を出さないこと、との誤解があるのではないかと考える。

<註> 岐阜市中央青少年会館HPより「子ども会育成会の役員として」

<http://www.city.gifu.lg.jp/4862.htm> (最終情報取得日 平成 29 年 1 月 9 日)

3 地域活動指導員としてのさらなる活動

活動が自発的、自主的なものでなくても、子供たちは主体的に活動することはできる。しかし、子供たちの主体性を発揮させるためには、大人の「しかけ」が不可欠である。例えば、計画会の最初に「今度のデイキャンプでは、バーベキューをみんなでするんだよ。」や「大きなアスレチックがあって、楽しそうな場所だよ。」と投げかけるだけでも、子供たちの意欲は違ってくる。

今回の計画会に参加し、地域活動指導員が担う五つの活動内容のほかにも、指導部の方々への支援・援助、つまり教師として身に付けている指導力を、インリーダー指導にも活用してもらう工夫をしていく必要があると考えた。

しかしながら、指導部の方々の意図や思いとは違った動きにならないように動くには、事前の了承や共に事前の計画・打ち合わせをすることが大切であろう。なかなか時間が取れない中、どう実現していくかが課題である。改めて時間が取れないようであれば、活動直前の短い時間の中で子供たちへの指導の共通理解を図る場を設けることも考えられる。

ただ、指導部の方々が、どのような意識でいるのか、つまり、どこまで地域活動指導員を担う教員に口を出してほしいと考えているのかを捉えないと、次の一手が打てない。そこで、1学期の終わりに、子ども会育成協議会指導部 6 名へ地域活動指導員実践報告を配布し、それと同時にアンケートの回答も依頼した。

4 子ども会指導部員 6 名へのアンケート調査の概要と結果

問 1 別紙の活動報告を見ていただき、今後、さらに地域活動指導員として取り組むとよいことがありましたら、お書きください。

この問いへの回答としては、「今まで通りの活動をしてほしい。」という意見が多く、そのほかには、積極的に教員が活動へ参加することに対して評価する記述や、掲示板を作成したことに対するお礼の記述があった。

問 2 インリーダーの活動中の地域活動指導員の姿勢として、期待したい姿勢を選び「○」をつけてください。できましたら、理由もお書きください（例えば、7月9日の「デイキャンプの計画」の会では、地域活動指導員として、どこまで踏み込んで指導すればよいか迷いましたので、担当者としてのお気持ちをお聞かせください）。

- () 参加するだけで十分なので、子供たちの様子を見守ってほしい。
- () 気付いたことがあれば、今まで通り、子供たちに声をかけてほしい。
- () もっと子供たちに声をかけたり、指導したりしてほしい。

この問いへの回答としては、三番目を選択する回答が多いと予想していたが、結果は6名全員が二番目を選択した。「子供の主体性を大切に」という役員としての活動への心構えが縛りとなった回答であったかもしれない。

問 3 そのほか、学校へのご要望など、何かありましたらお書きください。

この問いへの回答としては、「学校への要望」ではなく、以下のように、役員としての思いを率直に書いた方もいた。

- ・どこまで指導部員として子供の活動へ口を出していいかという迷い
- ・半ば強制的に仕事が回って来る現状への不満
- ・和を乱すような言動をする子供への対応への困り感

このような記述を見ながら、公私ともに忙しい中、くじを引いて当たったために1年間の役員を引き受け、大勢の子供たちへの指導など経験がないのに懸命に指導している方々の思いも伝わってきた。

一方で、子ども会育成協議会の会長と会話していると「子供たちが失敗しても構わない。指導部の大人も力を付けてほしい。」と話されていた。

今後の活動では、自分が指導者として出過ぎないように配慮しながら、しかし教員としての指導力を生かして子供たちへ声かけをするだけでなく、活動中の指導部の方の声掛けの仕方を褒めるなど、指導部の方々にも成功体験を積み重ねながら指導者として育ててもらい、何よりも、よりよいインリーダーの活動を創り出しながら子供たちが育っていくように、できることをやっていきたいと考えるようになった。

5 地域活動指導員として指導部へ積極的に指導・支援する場の選択

しかし、インリーダーの活動すべてに対して、一律に指導部の方へ指導・支援するべきではないと考えた。表1のように、田植えなど、地域の各種団体の方々の手厚い指導・支援がある場では、特に指導部の方への指導・支援は必要とされない。先に詳細に取り上げたデイキャンプの計画会など、指導部の方のインリーダーへの指導が中心となる活動の際、地域活動指導員として子供たちへの指導・支援のみならず、指導部の方へのそれらも必要となってくると考えた。もちろん、地域での活動であるから指導部の方の指導・支援の妨げにならないように配慮することが大切である。

表1 地域活動の特質別の地域活動指導員の役割

| | | |
|--------|---------------------------------|---|
| 主な活動 | 田植え | デイキャンプ計画会 |
| 指導者 | 地域の指導・支援が充実 | 指導部員だけで指導 |
| 役割 | 地域活動指導員として 子供への指導・支援にできるだけ専念 | 地域活動指導員として指導部への 指導や助言・評価・激励も必要 |
| その他の活動 | 歩け歩け大会 稲刈り 収穫祭 | 開講式 子どもフェスティバルの準備と当日 デイキャンプ当日と反省会 新年子供大会 |

6 今後の地域活動指導員としての構えと活動

今後の活動では、子供たちや保護者が見通しをもって活動に参加できるように、指導部の方には活動の案内文書を、遅くとも1ヶ月前には配付するように依頼し、実現した。また、指導部長と電話等で連絡を取り合い、事前に活動の打ち合わせをするようになった。加えて、毎回、活動前には指導部長と活動の内容についてさらに打ち合わせを重ね、その際に「この活動にかかる時間は長くなりすぎない方がよいですね。」「この活動はグループで行うのですか？」など、気付いたことを筆者（松田）から助言・確認をするようにし、活動の充実を図るようにした。さらに、デイキャンプなどの活動中の子供たちのよさを指導部の方に伝えたり、指導部の方の計画や準備、指導のおかげで活動が円滑に進んだことなどに対する評価やお礼を述べたりするようにした。これらの取り組みも地域活動指導員の活動の一つとして認識し、今後も活動していくことが重要であると考えている。

(5) 地域活動指導員として実践研究のまとめ

1 地域活動指導員として実践したことによって得られた見解

地域活動指導員としての実践を通して、次のような見解を得た。

まずは、子供たちの教育（人間形成）、育成には、学校だけでなく、多くの保護者や地域の方々関わっていることが認識できたことである。また、想像以上に多くの方々関わっていること

を知ることができたことも大きな成果であった。

加えて、子ども会の役員など、多くの地域の方々との顔つなぎができたことも成果として挙げられる。今後、様々な形で連携していく上での大きな財産である。

さらに、子ども会の役員の方々の子供たちの指導に当たる際の課題についても見えてきた。一つ目は、学校とは違い、よく言えばリラックスして活動に参加している子供たちに対し、強く指導できないということ。二つ目に、主体性を大切に指導する構えはよいが、活動を子供たちに任せすぎてしまったり、逆に活動案を与えすぎてしまったりすることがあり、指導方法のバランスが取れていないということ。

三つ目に、活動の目的や見通し、制限時間などを示さない中で活動を進めてしまっているため、子供たちの活動に対する課題意識が薄いということ。とりわけ、これらの三点が課題として挙げられると感じた。

子供たちへの指導に関しては、学校の教員はプロであるから、役員の方々の指導を補助したり、時には前面に出て指導したりするなど、教員として支援できる場所は少なくないこともつかむことができた。

最後に、地域活動指導員へのアンケート調査で、この職が抱える多忙感や負担感を挙げる教員が少なからずいたことは、前述の通りである。確かに、「インリーダー開講式」や「歩け歩け大会」など、地域の行事は土日や祝祭日に開催されることが多く、そこに教員が参加するととなると、休日出勤を余儀なくされるのが現状である。この点については、今後の課題として残された。

2 地域活動指導員として実践してきたことによる成果

地域の活動に参加していると、顔見知りが多くなり、色々と地域の方から声をかけられるようになり、地域の情報が自分に集まるようになってきた。例えば、「第5ブロック子どもフェスティバル」の最中に、子ども会育成協議会長から、「夏休み中のラジオ体操は、例年、お盆前に終わっていましたが、当該年度は試みとして、夏休みの最終5日間も実施しようと思います。子供たちが生活リズムを整えてから登校できるようだと思います。」との話があった。他の教職員は知らない話であったため、自分から、職員会で紹介し、周知を図ることができた。

管理職に対するアンケート調査³⁾でも、地域活動指導員に期待することとして「学校と地域のパイプ役」があった。地道に地域の活動に参加し、地域の方々と関わり合うことがパイプ役の責を果たすための重要な下地であると考えられるようになった。

3 付記 学校支援本部事業への参加について

学校運営協議会で承認された学校運営方針等に基づき、学校を支える実働部隊として、勤務校の学校支援本部事業である「学校支援推進委員会」が設置されている。平成28年度は、地域活動指導員と共に、この委員会の統括役も筆者（松田）は務めてきた。

この会の委員長は、学校のPTA副会長で、地域コーディネーターは、学校に隣接して設置されている公民館の公民館主事が担当している。

平成27年12月21日に、中央教育審議会から「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推方策について（答申）」が出されたが、今後は、地域に「地域学校協働本部」を立ち上げ、地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）を中心に、学校との連携・協働を模索していくことになる。しかし、何もない所からの立ち上げは難しいため、おそらく、既存の「学校支援推進委員会」を元にして立ち上げていくことになるであろう。その立ち上げにも、地域活動指導員が寄与できるのではないかと考えている。

注)

- 1) 松田雅裕，益川浩一（2017）．学校と地域の連携を促す岐阜市「地域活動指導員」としての教員の意識に関する調査研究．地域志向学研究，3，p.54.
- 2) 本章では、「単位子ども会」や「子ども会指導部員」，「子ども会育成協議会会長」のような子ども会内の役職に関わる名称が出てくるため，下に「子ども会育成会の組織」や「長森東子ども会育成協議会」について整理して示しておく。

| 子ども会育成会の組織 | 長森東子ども会育成協議会 |
|---|---|
| ☆全国子ども会連合会（全子連） ↓岐阜県子ども会育成連合会（県子連） ↓岐阜市子ども会育成連合会（市子連） ↓第1～5ブロック子ども会育成会 <長森東は第5ブロック> ↓地域子ども会育成会 <長森東子ども会育成協議会> ↓町内（単位）子ども会 <長森東校区は6町内> | ○顧問（2名） ○会長（1名） ○副会長（2名） ○書記（3名） ○会計（3名） ○監査（2名） ☆指導部 ・部長（1名） ・副部長（1名） ・部員（4名） ⇒ インリーダー指導担当 ◇各町内（単位）子ども会担当（6名） 各町内名：天池・琴塚・新田・樹木・水海道・岩地 |

- 3) 松田雅裕, 益川浩一 (2018). 学校と地域との連携についての学校管理職の意識に関する調査研究. 地域志向学研究, 2.